

米国高等教育情報および学術情報

エリート男性研究者、女性よりも男性を多く雇用する傾向 (7月1日)

マサチューセッツ工科大学 (Massachusetts Institute of Technology : MIT) 所属のがん生物学者であるジェイソン・シェルツァー氏 (Jason Sheltzer) とツイッター社 (Twitter) 所属のソフトウェア・エンジニアであるジョーン・スミス氏 (Joan Smith) が、米国で研究ラボを率いる主任研究員 (PI) の性別と、研究員の男女構成割合に関する調査結果をまとめた論文「生命科学分野におけるエリート男性研究者による女性雇用は少数 (Elite male faculty in the life sciences employ fewer women)」が、米国科学アカデミー紀要 (Proceedings of the National Academy of Sciences) に掲載された。

両氏は、米国の著名な 24 研究機関の 39 部門で勤務する 9,000 人超の大学院生及びポストドクフェローに関する公開データに基づき調査した結果、研究ラボの PI が男性の場合、ポストドクの 36%、大学院生の 47% が女性であるのに対し、女性が PI である研究ラボでは、ポストドクの 46%、大学院生の 53% が女性で、PI の性別により、雇用されるポストドク・大学院生の男女構成割合に格差があることが判明したという。

この格差は、PI が米国科学アカデミー (National Academy of Science : NAS) 会員もしくはハワード・ヒューズ医学研究所 (Howard Hughes Medical Institute : HHMI) からの助成受給者などといったエリート男性 PI の場合はさらに顕著で、女性ポストドクフェローの割合は 31% に低下する他、ノーベル賞受賞男性研究者 22 人が率いる研究ラボでは、ポストドクフェローの男女比が 3 対 1 であったという。

その一方で、女性 PI が NAS 会員もしくは HHMI 助成受給者である場合と、そうでない場合を比較すると、雇用する研究員の男女比はほぼ同様であることが明らかにされた。同論文の執筆者は、研究員の雇用の背景には多くの要因があり、この男女間の格差が一概に男女差別とは言えないものの、特に男性 PI は才能ある女性研究者を積極的に採用する努力が必要としている。

なお、本論文の要約は、<<http://www.pnas.org/content/early/2014/06/25/1403334111>>から閲覧可能。

Nature Publishing Group, Elite labs hire more men than women

<http://www.nature.com/news/elite-labs-hire-more-men-than-women-1.15483>